

事務事業名		塩谷町立学校図書館連携システム構築事業				<input type="checkbox"/> 事後(中間)評価対象事業			
総合計画	政策名	0:2: 豊かな人を育むまちづくり				所属課	学校教育課	担当	学校教育担当
	施策名	0:2: 教育環境の充実				課長名	手塚 健一	担当者名	平石 順一
予算科目		会計	款	項	目	事業	事業コード名	関係法令・条例等	
		1	0:9	0:1	0:2	0:0:1	事務局運営費		
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 29 年度)		<input type="checkbox"/> 期間限定 ( 年度~ 年度)					
事務事業の概要 (事務事業の内容を記載)		<p>1 事務事業概要</p> <p>・現在、図書館の管理をシステム化しているのは中学校のみであり、3小学校はアナログ管理をしているところだが、3小学校については図書館管理をシステム化することにより蔵書管理を容易にする事が出来る。また中学校についてはシステム導入後10年以上経過していることもありシステムの更新を図ると共に小中連携したシステムを構築しデータベース化する事により、購入必要図書・不要図書の選定や各学校の図書館が連携することで、児童・生徒は閲覧・検索出来る蔵書が増え、知識・学習能力の向上を図る。</p> <p>小中学校管理蔵書をデータベース化しておくことにより、町図書館との連携もスムーズに移行できるようになる。</p> <p>2 概算事業費</p> <p>・図書管理システム導入費 1,500千円(3小学校、中学校計)</p> <p>・図書システム年間保守費 6,500円×12ヶ月=78千円(4校分)</p> <p>・蔵書システム使用費 14,100円×12ヶ月=169千円(4校分)</p>							

(1) 事務事業の目的と指標		(4) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
① 活動の計画 (活動の量・大きさ・規模等)	・学校図書館のシステム化	名称	単位
② 対象 (事業は誰・何を対象にしているのかを記載)	・蔵書	システム化数	校
③ 目標 (この事業によって、対象をどうしたいのか記載)	・1人あたり蔵書貸出数の向上	名称	単位
		蔵書電算管理率	%
		名称	単位
		貸出数	冊

(2) 指標・総事業費の推移		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成32年度 総合計画 最終年度
活動指標	ア	目標値	校	4	4	4	4	4
	イ	実績値	校					0
対象指標	ア	目標値	%	100	100	100	100	100
	イ	実績値	%					0
成果指標	ア	目標値	冊	18	19	20	20	20
	イ	実績値	冊					0

計画		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成32年度
投入量	事業費	千円					0
	財源内訳	千円					0
	国庫支出金	千円					0
	県支出金	千円					0
	地方債	千円					0
	その他	千円					0
事業費計 (A)	千円	0	1,711	248	248	248	248

実績		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成32年度
投入量	事業費	千円	0	0	0	0	0
	財源内訳	千円					
	国庫支出金	千円					
	県支出金	千円					
	地方債	千円					
	その他	千円					
事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	

評価項目	説明	事前評価結果	実施後の状況	事後評価結果
目的妥当性評価 ① 公共関与の妥当性 なぜこの事業を町が行わなければならないのですか？税金を投入して、達成するものですか？	町立学校設備における児童・生徒の教育環境を整えることは町の責務である。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
有効性評価 ② 着手・実施の必要性 この事務事業をなぜ着手・実施しなければならないのか？先延ばしにできない理由は何か？	学校図書をデータベース化し、図書室管理をシステム化することにより、50,000冊を超える学校図書を有効活用するため。また管内学校は導入済みで有り、学校からの要望も強いため。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
効率性評価 ③ 総事業費の算定根拠 算定にあたってコスト削減策を考えたか？将来のコスト増要因に対して対策が考えられているか？	管理をシステム化する事により、貸出状況が明確になり、不明蔵書数の軽減に繋がる。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
公平性評価 ④ 受益と負担との関係 事業の内容は受益と負担との公平性が考慮されているか？	全ての学校が連携するため、町内学校に通う児童・生徒が学校別の差なく、必要な図書を公平に閲覧・検索できる。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり

### 3 事前評価結果

事前評価日： 平成 28 年 11 月 1 日

(1) 事前評価者として判断した今後の事業の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 1次案のまま採択 <input type="checkbox"/> 下記条件で採択 <input type="checkbox"/> 不採択 <input type="checkbox"/> 差し戻し	
(2) 採択条件	(3) 指示事項(事務事業に関する指示、事後(中間)評価日程等) ・システムが構築されたら、PR(周知)を十分に行うこと。

### 4 成果検証

事後(中間)評価日： 平成 年 月 日

事務事業実施後の概要 (実施しての効果、受益者等の反応、問題点、課題等を記載)	
--	--

(1) 評価結果(今後の方向性) <input type="checkbox"/> 優(成果大) <input type="checkbox"/> 良(良好) <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可(成果なし・中止・計画変更必要)	
(2) 総評	(3) 指示事項  <input type="checkbox"/> 再評価対象事業